

震度とゆれ

震度は「計測震度計」で測定

かつて、震度は体感および周囲の状況から推定していましたが、平成8年（1996年）4月以降は、計測震度計により自動的に観測し速報しています。気象庁が発表する震度は、気象庁、地方公共団体及び国立研究開発法人防災科学技術研究所が全国各地に設置した震度観測点で観測した震度です。

震度とゆれの状況

気象庁の震度階級は、10階級となっています。

0

【震度0】

人は揺れを感じない。



1

【震度1】

室内で静かにしている人の中には、揺れをわずかに感じる人がいる。



2

【震度2】

室内で静かにしている人の大半が揺れを感じる。



3

【震度3】

室内にいるほとんどの人が、揺れを感じる。



4

【震度 4】



- ・ほとんどの人が驚く。
- ・電灯などのつり下げ物は大きく揺れる。
- ・座りの悪い置物が、倒れることがある

5弱

【震度 5 弱】



- ・大半の人が、恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。
- ・棚にある食器類や本が落ちることがある。
- ・固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。

5強

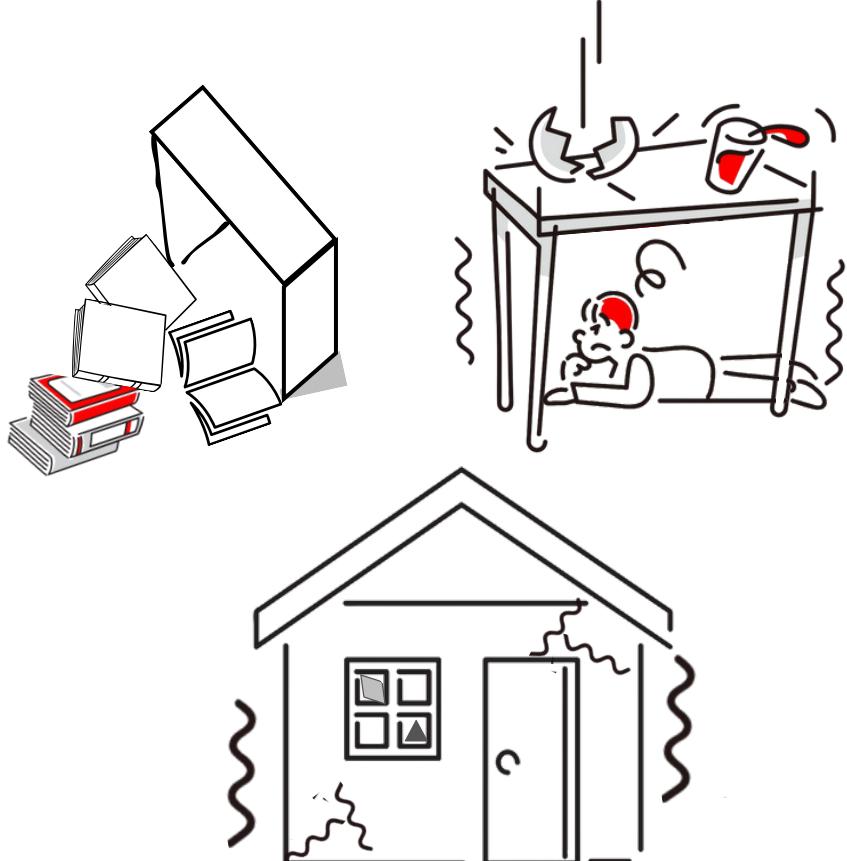
【震度 5 強】



- ・物につかまらないと歩くことが難しい。
- ・棚にある食器類や本で落ちるものが多くなる。
- ・固定していない家具が倒れることがある。
- ・補強されていないブロック塀が崩れることがある。

6弱

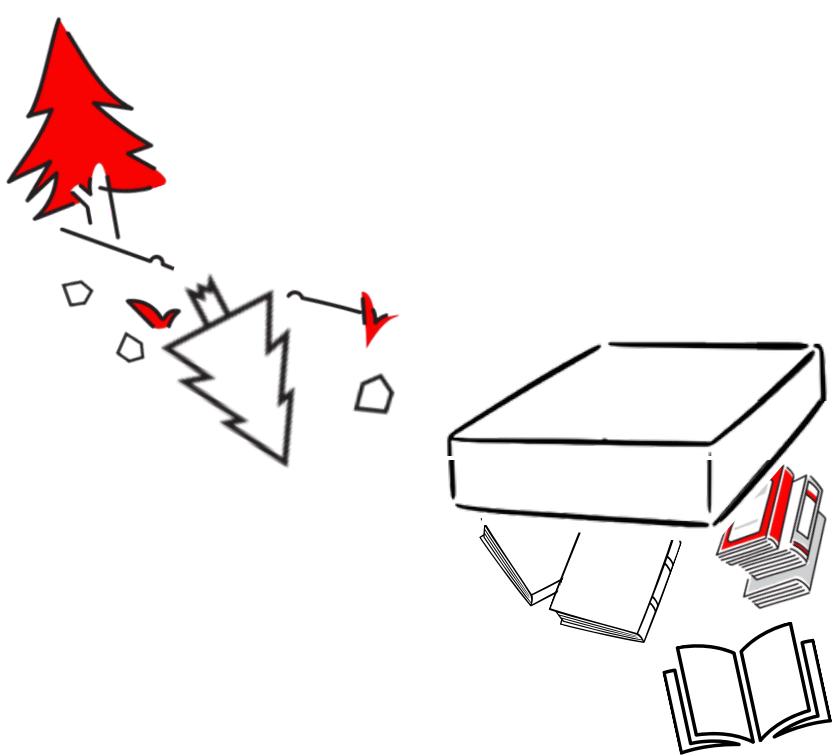
【震度 6 弱】



- ・立っていることが困難になる。
- ・固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることもある。
- ・壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。
- ・耐震性の低い木造建物は、瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。倒れるものもある。

6強

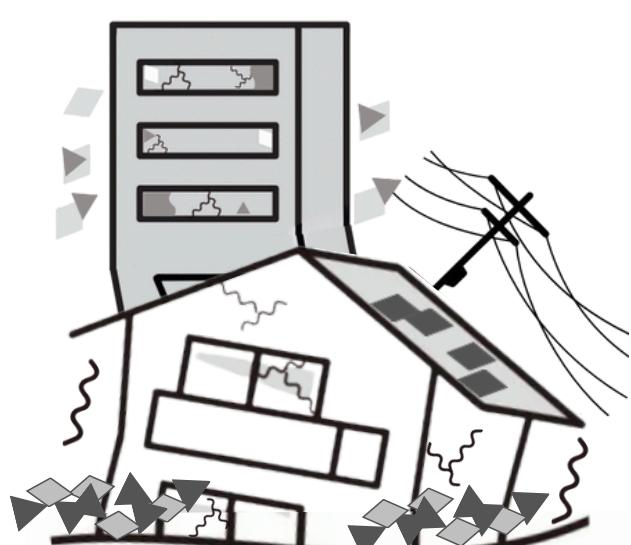
【震度 6 強】



- ・はわないと動くことができない。飛ばされることもある。
- ・固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが多くなる。
- ・耐震性の低い木造建物は、傾くもののや、倒れるものが多くなる。
- ・大きな地割れが生じたり、大規模な地すべりや山体の崩壊が発生することがある。

7

【震度 7】



- ・耐震性の低い木造建物は、傾くもののや、倒れるものがさらに多くなる。
- ・耐震性の高い木造建物でも、まれに傾くことがある。
- ・耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物では、倒れるものが多くなる。